



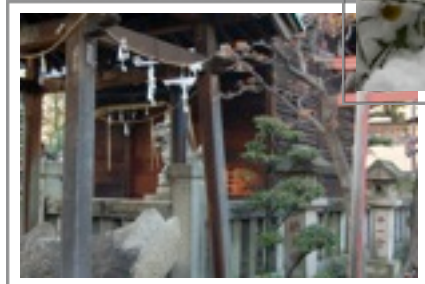
J-BILAT 月刊ニュースレター
第22号

2012年1月

J-BILAT Newsletter

No.22

January 2012



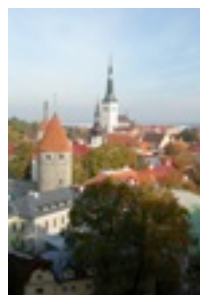
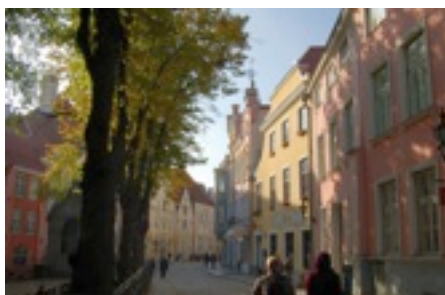
J-BILAT 月刊ニュースレター 第22号 (2012年1月)

目次 (Contents)

1. JST 戦略的国際科学技術協力推進事業
「日本－EU研究交流」における平成23年度新規課題の決定について
2. CONCERT-Japan プロジェクトからの報告
3. ノルウェーとの科学技術交流の実例
京都ノルウェーセンターと京都国際環境・エネルギーフォーラム (KIFEE) の活動
4. ニュース (News)
 - 4.1. 日欧産業協力センター東京事務所移転
5. 公募情報
 - 5.1. 日本からの応募が可能なFP7公募一覧
6. プロジェクトデータベースへの登録のお願い
7. 欧州連合加盟国紹介
その16 エストニア

今後の関連する催し

- 4.2. EESC Employers' Group Conference
“Ageing Population & New Opportunities Associated for Businesses in Europe and Japan”
- 4.3. その他、関連する今後の催しのリスト



1. JST 戦略的国際科学技術協力推進事業

「日本－EU研究交流」における平成23年度新規課題の決定について

FP7の環境関連分野の公募の内、科学技術振興機構（JST）が選択したものに基づくプロジェクトに日本からの参加機関があった場合に、日本側としてマッチング助成を行うJSTの事業が、戦略的国際科学技術協力推進事業「日本－EU研究交流」の一環として行われてきましたが、平成23年度の新規課題が決定された旨、2011年末に発表がありました。詳細は下記のウェブサイトを御覧ください。

<http://www.jst.go.jp/pr/info/info854/index.html>

平成21年度公募分（ナノ粒子の潜在的リスク管理に関する課題）および平成22年度公募分

（他3課題）の採択がまとめて発表されているようですが、これはEU側の採択プロセスに時間を要したためだそうです。また、欧州側のプロジェクトは3～4年の期間設定がされていますが、JSTからの支援は一律3年間だそうです。更に、この枠組でのEUとの次期共同公募については未定だということでした。

より大型の共同研究推進事業では、2011年の7月にEUとの超伝導分野での共同公募の結果が発表されています。戦略的国際科学技術協力推進事業全体については、以下のサイトを御覧ください。

<http://www.jst.go.jp/inter/index.html>

日本側課題名	日本からの参加機関	欧州側プロジェクト名	FP7契約番号	期間	URL
工業用ナノ粒子の健康および環境における潜在的リスク管理に関する研究	物質材料研究機構	Managing Risks of Nanomaterials (MARINA)	263215	2011-11-01 - 2015-10-31	http://www.marina-fp7.eu/
天候および海洋と水についての全球地球観測システムを利用した相互流通性	東京大学	GEOSS interoperability for Weather, Ocean and Water (GEOWOW)	282915	2011-09-01 - 2014-08-31	http://www.geowow.eu/
東シベリア北極陸域生態系の永久凍土と温室効果ガスの動態	北海道大学	Changing Permafrost in the Arctic and its Global Effects in the 21st Century (PAGE21)	282700	2011-11-01 - 2015-10-31	http://page21.arcticportal.org/
ストレス条件下における穀物根の養分獲得能の強化	国際農林水産業研究センター	Enhancing resource Uptake from Roots under stress in cereal crops (EUROOT)	289300	2012-01-01 - 2015-12-31	

2. CONCERT-Japan プロジェクトからの報告

J-BILATニューズレター第10号及び15号にてご紹介をしたCONCERT-Japanプロジェクトのコーディネーターより、最新の報告をいただきました。以下に原文と日本語訳を掲載いたします。

ACHIEVEMENTS OF CONCERT-JAPAN PROJECT IN ITS FIRST YEAR

CONCERT-Japan (Connecting and Coordinating European Research and Technology Development with Japan) is aimed to coordinate and structure the science, technology and innovation (STI) cooperation between European countries and Japan. The first year of CONCERT-Japan project, which started on 1 January 2011 and will last for three years, has been completed.

Following the Kick-Off Meeting held on 17-18 January 2011 in Istanbul / Turkey, the CONCERT-Japan project spent its first year on the preparatory strategic analysis for the joint call and targeted to explore the current cooperation schemes between European countries and Japan in science, technology and innovation with an extended focus on the future preferences of the programme owners. The first two strategic reports of CONCERT-Japan project, the "Inventory of Japanese International STI Cooperation Programme Owners" and "Informative Report on Japanese STI Funding Policy" which presented the Japanese STI system and its actors have been released in the first quarter of 2011.

For the second half of the first year, the project mostly concentrated on taking stock of the ongoing STI cooperation between Europe and Japan and thus paving the way for the structuring of the future joint activities. Based on the CONCERT-Japan Questionnaire for Funding Organizations the "Database of STI Cooperation Programmes between European Countries and Japan" has been prepared and integrated to the project website (www.concertjapan.eu) in a searchable format. The CONCERT-Japan "Recommendatory Report on the Results of the Mapping of STI Cooperation Programmes" compiled the views and recommendations derived from the mapping of relevant bilateral, multilateral and unilateral science, technology and innovation cooperation programmes. The CONCERT-Japan "Report on Future Preferences and Priorities on STI Cooperation between European Countries and Japan", on the other hand, included the consolidated results of the answers received from the online questionnaire relating to future tendencies of the programme managers or owners in European Countries with regard to STI cooperation with Japan and vice versa.

CONCERT-Japan プロジェクト初年度の成果

CONCERT-Japan (Connecting and Coordinating European Research and Technology Development with Japan) は欧州各国と日本の間の科学・技術、イノベーション協力のコーディネーションと関係構築を目指しています。三年間のプロジェクトは2011年1月1日にスタートし、最初の一年が終わりました。

2011年1月17～18日、トルコのイスタンブールでのキック・オフミーティングに始まったCONCERT-Japanでは初年度を（プロジェクト期間中に各国助成機関により行われる予定の）共同公募の準備のための戦略分析、欧州各国と日本の間の科学・技術・イノベーションに於ける協力構想の現状調査と各プログラムを管轄する団体が将来優先しようとしている事の分析に充てました。最初の3ヶ月に出された2つの戦略レポート「日本の科学・技術・イノベーションの国際協力プログラム主催者目録 (Inventory of Japanese International STI Cooperation Programme Owners)」及び「日本の科学・技術・イノベーション政策 (Informative Report on Japanese STI Funding Policy)」では日本の科学・技術・イノベーションの仕組と主な団体について報告がなされました。

初年度の後半では、既に進行中の科学・技術・イノベーション協力を土台に今後の協働関係の構築のための地ならしをすることに主眼が置かれました。助成期間を対象とした調査に基づく「日欧 科学・技術・イノベーション国際協力プログラムデータベース (Database of STI Cooperation Programmes between European Countries and Japan)」はプロジェクトのウェブサイト www.concertjapan.eu に検索可能なものとして掲載されました。「科学・技術・イノベーション協力プログラムのマッピングの結果に基づく提言レポート (Recommendatory Report on the Results of the Mapping of STI Cooperation Programmes)」には二国間、多国間、一国のみの協力プログラムのマッピングを通して得られた意見や提言を盛り込みました。一方、「欧州各国と日本の科学・技術・イノベーション協力の優先傾向及び事項 (Report on Future Preferences and Priorities on STI Cooperation between European Countries and Japan)」では、欧州各国及び日本の助成機関へのオンライン調査の結果として、それぞれの観点からの日欧連携の将来像を収録しました。

As a result of the strategic analysis and meetings within this very first year of the project, it was determined to publish a multilateral joint call with the participation of interested funding organizations both from Europe and Japan in the second half of 2012 under the name "CONCERT-Japan Research and Innovation Call". The preparations for the CONCERT-Japan joint call is still under progress. Discussions on the call fields and topics, involved countries, target call beneficiaries, call budget and funding period as well as industry participation are expected to be finalized in the first quarter of 2012. The pre-announcement of the joint call is planned to be published within July 2012.

For more information about the CONCERT-Japan project please consult www.concertjapan.eu. You can also reach the public project outputs and also subscribe for our quarterly electronic newsletter through the project website. If your organization would also like to be involved in this process, please contact with the project management team through the e-mail address concertjapan@tubitak.gov.tr.

戦略分析や初年度の各会合の結果、2012年の後半に「CONCERT-Japan Research and Innovation Call」として日欧の助成機関による多極間助成の公募を発表することが決定されました。現在の所、共同公募の準備を引続き進めている状況です。公募分野や課題、参加する国、どのような参加者を対象に助成するか、予算額や助成期間、産業界の参加などについての議論が2012年の最初の3ヶ月でまとまる見込みです。2012年の7月には、公募の予告を出す予定になっています。

CONCERT-Japan プロジェクトについて更に詳しい情報をお知りになりたい方は、プロジェクトのウェブサイト www.concertjapan.eu を御覧ください。プロジェクトの成果物の内、一般公開されているものの閲覧ができる他、四半期ごとに電子発信されているニュースレターの購読申込みができます。ご所属の機関が共同助成にご参加をされた場合には、concertjapan@tubitak.gov.tr のプロジェクトマネジメントチーム迄、ご連絡を頂けますと幸いです。



CONCERT JAPAN
Connecting and Coordinating
European Research and Technology Development with Japan

3. ノルウェーとの科学技術交流の実例

「京都ノルウェーセンターと京都国際環境・エネルギーフォーラム (KIFEE) の活動」

FP7関連国として、EU加盟国と同等にFP7プロジェクトに参加をしているノルウェーと日本との二国間連携に関し、同志社大学理工学部の後藤琢也准教授にご寄稿をいただきましたので、以下に全文を掲載いたします。

2003年5月にノルウェー王国と日本の間で科学技術協力に関わる二国間協定の調印が行われました。その具体化の一環として、両国の文化、科学技術交流を行い、相互理解、相互協力をはかることを目的として、2004年に同志社大学今出川校地「ハリス理化学館」にノルウェー京都センター（同志社大学教授伊藤靖彦センター長）が、ノルウェー駐日大使や八田英二学長をはじめとする多くの方々のご理解とご尽力によって開設されました。

現在は、同志社大学教授山口博司センター長として、下記のような具体的な活動が進められています。

- (1) ノルウェー情報・図書の収集
- (2) ノルウェー文化・生活講座の開催
- (3) ノルウェー・日本の化学技術協力2国間協定に基づく具体業務支援
- (4) 関西在住ノルウェー人の文化交流活動支援
- (5) 来日ノルウェー人の関西での活動支援
- (6) 「Kyoto International Forum for Environment and Energy」(略称：KIFEE、和文名：京都国際環境・エネルギーフォーラム)の活動支援
- (7) 日本、ノルウェー両国学生の留学支援
- (8) その他

一方、上記の「Kyoto International Forum

for Environment and Energy」(略称KIFEE、和文名：京都国際環境・エネルギーフォーラム)が設立され、日・諾両国で活発な活動が行われています。

このフォーラムは、「日本」、「米国」、「ノルウェー」の3国の有志が一同に会して、環境・エネルギー問題についての認識を深めるとともに、産・官・学・民の様々なレベルでの国際交流・国際協力を図り、環境・エネルギー問題の解決に貢献したいとの趣旨で設立されました。フォーラムの名称に京都が入っているのは、地球温暖化防止に関する京都議定書(COP3)など、環境問題への取り組みでは、象徴的である「京都」を名称の一部に入れることで、常に我が国が先陣に立って取り組むという意思表示であり、京都に関連のある団体個人のみが参画できるという意味ではありません。現在の主要な参加団体として、日本からは、京都大学、同志社大学、大阪府立大学、東北大学、滋賀大学、大阪大学、産業総合技術研究所等、欧州からは、NTNU、オスロ大学、SINTEF、米国からは、スタンフォード大学とかなり広い枠組みでの連携が行われています。



第4回KIFEE会議での一コマ

現在は、任意団体として活動を展開しておりますが、

- (1) 科学者、技術者、ポスドク、学生などの国際交流の支援と促進
- (2) 国際レベルでの産・学、産・産、学・学共同研究の支援と促進
- (3) 環境・エネルギーに関わる種々のセミナーの開催
- (4) 環境・エネルギーに関わるコンサルティング
- (5) その他

などがその具体的な活動内容です。これらの中でも、2005年に第1回KIFEE環境エネルギー材料に関する国際会議（京都）（日本側参加者約70名、ノルウェー側約30名）を行い、2006年第2回（トロントハイム）（日本側参加者約50名、ノルウェー側参加者約100名）2007年第3回（大津）（日本側参加者約140名、ノルウェー側約40名）2009年第4回（トロントハイム）（日本側参加者約50名、ノルウェー側約100名）2011年第5回（京都）（日本側参加者約100名、ノルウェー側約50名）とその後すでに5回の会議を成功裏に終了しています。さらに、2012年9月に第6回会議がノルウェーで開催される予定であり、日本側実行委員会の代表委員として、実行委員長を山口博司KIFEE理事長、事務担当として東北大学雨澤浩史准教授、同志社大学後藤琢也准教授が現在準備にあたっています。

この会議では、産官学からの出席者が

- (1) プロセス工学
- (2) 無機材料
- (3) 電解工学

- (4) バイオ材料
- (5) 教育

の五つの分科会に分かれて、環境エネルギーについて討論を行い、既にこの会議を通じて、あらたな研究協力体制が進んだ例もあります。



第5回KIFEE会議での一コマ

今後、ますますこの京都ノルウェーセンターおよびKIFEEでの活動を通じて、日本とノルウェーが核となり、先進的な環境・エネルギーに関わる産業の創出が生まれればと願っています。また、何かございましたら下記にご連絡いただけますようお願いいたします。

京都ノルウェーセンター事務局連絡先：

〒602-8580

京都市上京区今出川通烏丸東入

同志社大学内

e-mail: tgoto@mail.doshisha.ac.jp

京都ノルウェーセンターウェブサイト：

<http://www1.doshisha.ac.jp/~kiffee/>

4. ニュース (News)

4.1 日欧産業協力センター東京事務所移転

J-BILATプロジェクトをコーディネートしている日欧産業協力センターの東京事務所は、2012年1月16日より下記の住所に移転をしておりますのでお知らせいたします。最寄り駅は東京メトロ南北線もしくは都営地下鉄三田線の白金高輪駅です。電話・FAX番号も変わりましたのでご注意ください（メールアドレスに関しては以前と同じです）。

日欧産業協力センター

〒108-0072

東京都港区白金 1-27-6

白金高輪ステーションビル 4F

電話番号 03-6408-0281

FAX番号 03-6408-0283

今後の関連する催し

4.2 EESC Employers' Group Conference "Ageing Population & New Opportunities Associated for Businesses in Europe and Japan"

2012年は The European Year for Active Ageing and Intergenerational Solidarity とされており、それにちなんだ様々な催しが企画されています。日欧産業協力センターや J-BILAT 協力機関の EU インスティテュート関西も共催するイベントがブリュッセルにて開催されますのでご紹介します。

日時： 2012年3月15日（木） 9:00 - 14:00

場所： Room VM3, EESC (Rue van Maerlant 2, Brussels)

お申込み及び問い合わせ先（英語もしくは仏語）：

office@eu-japan.eu

詳細 URL：

<http://www.eesc.europa.eu/?i=portal.en.events-and-activities-ageing-business-europe-japan>

参考：過去の EU 年

年	名称
2012	Year for Active Ageing and Solidarity between Generations
2011	Year of volunteering
2010	Year of Combating Poverty and Social Exclusion
2009	Year of Creativity and Innovation
2008	Year of Intercultural Dialogue
2007	Year of Equal Opportunities for All
2006	Year of Workers' Mobility
2005	Year of Citizenship through Education
2004	Year of Education through Sport
2003	Year of People with Disabilities
2001	Year of Languages
1999	Year of Action to Combat Violence Against Women
1998	Year of Local and Regional Democracy
1997	Year against Racism and Xenophobia
1996	Year of Lifelong Learning
1995	Year of Road Safety and Young Drivers
1994	Year of Nutrition and Health
1993	Year of Older People and Solidarity between Generations
1992	Year of Health and Safety at Work
1990	Year of Tourism
1989	Year of Information on Cancer
1988	Year of Cinema and Television
1987	Year of the Environment
1986	Year of Road Safety
1985	Year of Music
1984	Year for a People's Europe
1983	Year of SMEs and the Craft Industry

4.3 その他、関連する今後の催しのリスト

主にヨーロッパで今後開催される FP7 関連イベントを出来る限りまとめています。もし、掲載されていない催しの情報やその他ご希望がありましたら是非ともお知らせ下さい。

分野	催し名	日付	場所	内容、ウェブサイト等
Health	DIABESITY - A World-Wide Challenge	9-10 February 2012	Brussels, Belgium	http://ec.europa.eu/research/health/events-12_en.html
Innovation	Innovation Festival Finale Conference	27-28 February 2012	Milan, Italy	http://www.proinno-europe.eu/innovationfestivalevent/
Space	Space ^{EU}	28-29 February 2012	Brussels, Belgium	http://www.b2match.eu/spaceeu (既に申し込みは締切)
Mathematics	平成23年度 日本-欧州先端科学セミナー Mathematics for Innovation: Large and Complex Systems	28 February - 4 March 2012	Tokyo, Japan	http://www.jsps.go.jp/esf-jsps/yotei.html#kikan
Health	EESC Employers' Group Conference "Ageing Population & New Opportunities Associated for Businesses in Europe and Japan"	15 March 2012	Brussels, Belgium	http://www.eesc.europa.eu/?i=portal.en.events-and-activities-ageing-business-europe-japan (前項でご紹介しています。)
Space	6th International Conference I-ESA on Interoperability for Enterprise Systems and Applications	20-23 March 2012	Valencia, Spain	http://www.aidima.es/iesa2012/
Infrastructure	International Conference for Research Infrastructures – ICRI 2012	21-23 March 2012	Copenhagen, Denmark	http://ec.europa.eu/research/infrastructures/pdf/icri_concept.pdf
Environment	Planet Under Pressure	26-29 March 2012	London, UK	http://www.planetunderpressure2012.net/
ICT, Health	Global eHealth Strategies Symposium 2nd edition	18-20 April 2012	Luxembourg	http://www.medetel.eu/index.php?rub=educational_program&page=global_ehealth_strategies_symposium_2012
Transport	Transport Research Arena 2012 - sustainable mobility through innovation	23-26 April 2012	Athens, Greece	http://www.traconference.eu/
Energy	18th Group Exhibit Hydrogen + Fuel Cells (Hannover Messe 2012)	23-27 April 2012	Hannover, Germany	http://www.h2fc-fair.com/
ICT, Health	eHealth Week 2012	7-9 May 2012	Copenhagen, Denmark	http://www.worldofhealthit.org/
Education	European Higher Education Fair	10-12 May 2012	Tokyo(11-12) and Kobe (12), Japan	
Health	4th International Congress on Cell Membranes and Oxidative Stress Focus on Calcium Signaling and TRP Channels	26-29 June 2012	Isparta, Turkey	http://www.cmos.org.tr/2012/
Policy	ESOF 2012 (Euroscience Open Forum)	11-15 July 2012	Dublin, Ireland	http://www.dublinscience2012.ie/
STS	STS Forum Annual Meeting 2012	7-9 October 2012	Kyoto, Japan	http://stsforum.org/
Energy	International Conference on Greenhouse Gas Technologies (GHGT)	18-22 November 2012	Kyoto, Japan	http://www.ghgt.info/

5. 公募情報

ニュースレター発行時点での最新の情報をお送りしております。2011年7月に出された公募の多くは既に締切られたか締切りが間近に迫っています。公募のページには多くの書類が掲載されていますが、一番重要なのが以下の書類です。

Call fiche : 公募の文面

Work programme : 各分野の年次計画。公募されている分野の詳細や今後の予定

Guide for applicants (common part) : 応募にあたって注意すべきこと

Guide for applicants (annexes) : 特定の公募に関する追加情報

5.1 日本からの応募が可能なFP7公募一覧

以下に、現在出ているFP7の公募のうち、日本からの応募が可能なものをリストにまとめました。緑色のものは、特に日本からの参加をターゲットにした部分のある公募や日本からの参加者・機関に助成金が出る可能性のあるものです。

略号一覧 :

ICT: Information and Communication Technology; NMP: Nanosciences, nanotechnologies, materials and new production technologies; ENV: Environment; TPT: Transport; SIS: Science in society;

プログラム	テーマ	公募番号	応募締切	Comments
Cooperation	ICT	FP7-ICT-2011-C	25 September 2012 at 17:00:00 (Brussels local time) - For Batch_14 STREP and CSA 10 April 2012 at 17:00:00 (Brussels local time) - For Batch_13 STREP and CSA	FET Open scheme への応募は随時可能。
Cooperation	ICT	FP7-ICT-2011-9	17 April 2012 at 17:00:00 (Brussels local time)	Robotics, eHealth 等。日本にも直接助成の可能性のある公募あり。
Cooperation	NMP	FP7-NMP-2012-SME-6	03 May 2012 at 17:00:00 (Brussels local time)	
Cooperation	All	FP7-ERANET-2012-RTD	28 February 2012 at 17:00:00 (Brussels local time)	
Cooperation	ENERGY	FP7-ENERGY-2012-2	08 March 2012 at 17:00:00 (Brussels local time)	
Cooperation	TPT	FP7-TRANSPORT-2012-MOVE-1	01 March 2012 at 17:00:00 (Brussels local time)	
Capacities	SIS	FP7-SCIENCE-IN-SOCIETY-2012-1	22 February 2012 at 17:00:00 (Brussels local time)	
EURATOM	Fission	FP7-Fission-2012	27 March 2012 at 17:00:00 (Brussels local time)	

6. プロジェクトデータベースへの登録のお願い

プロジェクトに関する情報をお送りするために、データベースへの登録をお願いしております。プロジェクトウェブサイトからの登録に加え、メールやファックスにて、以下の情報をお送りいただいても結構です。

<http://www.j-bilat.eu/registration/>

Registration for the project database can be done through the following website, or by sending the information listed below to the project manager.

<http://www.j-bilat.eu/registration/>

- Title (Mr. Ms. Dr. Prof.)
- Surname 姓
- Name 名前
- Position 役職
- Affiliation 所属
- Mailing address 所属先住所 (optional)
- E-mail address メールアドレス
- Telephone No. 電話 (optional)
- Fax No. ファックス (optional)
- Area of interest (multiple choice from the following list:

Health; food, agriculture and biotechnology; information and communication technologies (ICT); nanosciences, nanotechnologies, materials and new production technologies; energy; environment (including climate change); transport (including aeronautics); socio-economic sciences and the humanities; security; space; other “ ”

興味のある分野（複数可）

保健・食料・農業・漁業・バイオテクノロジー・情報通信技術・ナノ科学及びナノテクノロジー・材料及び新生産技術・エネルギー（原子力を除く）・環境（気候変動を含む）・運輸（航空を含む）・社会経済科学及び人文科学・宇宙・安全・原子力・その他 「 」

7. 欧州連合加盟国紹介 その16 エストニア

欧州連合加盟国の特に研究開発に関し、順次簡単な紹介をしています。

漢字表記：愛沙ニア
面積：45,228 平方キロ
主要都市: タリン（首都）、タルトゥ、ナルヴァ、コフトラ=ヤルヴェ、バルヌ
人口：129 万人（2009）
公用語：エストニア語、ロシア語
宗教：福音ルーテル派プロテスタント 13.6%、ロシア正教 12.8%、無宗派 34.1%
名目GDP：18.8 bn USD (2010) 産業構成GDP: 農業: 2.5 % 工業: 28.7 % サービス業: 68.8 %
科学・技術： 国全体の研究開発支出（Gross Domestic Expenditure on R&D；GERD）：GDPの1.47% (2010見込) 研究開発費の出所 政府 53.2% 民間 44.7% (2009)



欧州連合加盟国の中でも人口の最も少ない国の一つであるエストニアであるが、近年は研究開発費がGDPに占める割合（GERD）、特に情報通信分野への投資を急速に伸ばしている。

科学・技術への助成に関しては、経済通信省下の Enterprise Estonia Foundation

<http://www.eas.ee/index.php?setlang=en-GB>

及び教育研究省管轄の Archimedes Foundation

<http://archimedes.ee/en/foundation/>

同じく教育研究省下のエストニア科学財団（Estonian Science Foundation）等が行なっている。

<http://www.etf.ee/index.php?page=3&>

(出典: CIA Factbook, Wikipedia, OECD, ERAWATCH, 他)


日本におけるFP7情報サービス事業(J-BILAT)

事業名	BILAT in Japan	省略形	J-BILAT
開始日	2010年1月1日	契約書番号	244310
期間	36 ヶ月	予算	612,090 EUR (内 FP7 助成金が500,000 EUR)

本ニュースレターに含まれるFP7関連その他の情報は得られた時点で最新のものを正確にお伝えするよう努めておりますが、意見等は関係機関の公式見解を表わすものではなく、また本文に EU の公式文書その他の日本語訳が含まれる場合にも、原典と同等の内容の正当性を保証するものではありません。本ニュースレターに関するご意見・ご要望・配信の停止等のお問い合わせは、右記の担当 市岡までお寄せ下さい。

Fabrizio Mura
プロジェクト代表
E-mail: fabrizio.mura [at] eu-japan.gr.jp
市岡 利康
プロジェクトマネジャー
E-mail: toshiyasu.ichioka [at] eu-japan.gr.jp
日欧産業協力センター
〒108-0072 東京都港区白金 1-27-6
白金高輪ステーションビル 4F
Tel.: +81 - (0)3-6408-0281
Fax: +81 - (0)3-6408-0283



 J-BILAT is on twitter

© 日欧産業協力センター
EU-Japan Centre for Industrial Cooperation
編集: 市岡 利康